



I-Rのあり方と今後の日本の競争力

「ワクワク感のある素晴らしい組織に、イキイキとした人材が集い、そこから提供されるサービスがお客様の「ニコニコ(満足)を生む。その結果として、目に見える資産である『金融資産』や『物的資産』が増える」。実践ワクワク経営研究会ではその思いやノウハウを披露し、共有し合っていく。この6月23日に開催した第6回目の研究会では、50年超の実績を有するファンドマネージャーの吉野永之助氏を講師に迎え、「I-Rのあり方と今後の日本の競争力」をテーマに語ってもらった。



吉野永之助
ファンドマネージャー

I-Rがはたす本来の役割

私は2012年にファンドマネージャーを引退するまで毎日のようにさまざまな企業を訪問し、I-R担当者から情報を得たり、議論を交わしたりしてきました。そもそもI-RとはInvestor Relationsの略称で、投資家などに対する広報活動のことを意味します。I-R担当者は投資家やアナリストなどに対応し、厳しい質問に回答しないといけないので、日々、万全の準備が必要で、とりわけ大手企業の場合はI-R情報も並大抵のボリュームではないので、すべての情報を把握し、投資家たちの質問に完璧に回答するのは至難の業でしょう。

とはいえ、I-R担当者にはぜひとも肝に銘じてほしいことがいくつもあります。まずひとつはいくら情報量が多いからといって、投資家たちの質問に対して、ただ「わからない」と答えてはいけないということです。最低でも「いつまでには返答します」といって、急いで社内の見解を取りまとめるくらいのことにはしなければなりません。ふたつ目は金融資産をはじめとした「見える資産」だけでなく、企業の歴史や文化といった「見えない資産」のことも把握しておくことです。本来、企業価値を捉えるうえで会社の「見えない資産」は重要な要素なのですが、従来のI-R担当者はそのあたりに無頓着なケースが多いので、シッカリと学び、アピールすべきでしょう。

3つ目は、その質問の内容から投資家たちの考えや思いを汲み取り、経営陣に伝えることです。多くの投資家たちは企業価値を正確に捉えるために厳しい質問をするわけですから、質問のひとつひとつに重要な意味があります。それをキッチリと理解、分析し、経営に役立ててもらうことも大切な仕事のひとつ

なのです。企業価値を高めるには、転じてこれからの時代に企業価値を高めるためのポイントについてお話ししたいと思います。ひとつ目はいまの時代に対応したガバナンスを効かせることです。たとえば、社外取締役を増やすという手法があります。社内の役員ではなかなか社長に真つ向から反対意見を出すことはできないので、社外取締役を半数以上にするのでよりガバナンスを効かせることができるはず。もうひとつはダイバーシティマネジメントの徹底です。ダイバーシティというと、女性社員を多く雇用するというイメージがあるかもしれませんが、そこには本来、さまざまなタイプの人材を幅広く受け入れ、活用するという意味があります。業種にこだわらず、法律に詳しい人や他業界に精通した人、ファン

ド運用の経験がある人などを登用したりして、自社に欠けているものを補ってあげれば、自然と企業価値を高めることができるはず。最後に最近話題になっているROE(株主資本利益率)についても触れておきたいと思えます。これは「1株当たりの利益(EPS)÷1株当たりの株主資本(BPS)」によってあらわされる数値で、株主資本がいくら企業の利益につながっているのかを示すものです。つまり、ROEが高ければ高いほど株主資本を効率よく使って利益を上げていくという風に捉えることもできます。

なお、海外の優良企業のROEを見ると、20〜30というところがかなりありますが、日本では8〜10あたりがいいところ。といっても、やみくもにROEが高ければ優良企業かというと一概にそうとはいいきれません。業種によってROE

の平均値は異なるので、ROEを企業価値を判断する際の指標として使う場合は同業他社の数値にも目を通し、相対的に評価することが大切です。ただ、中長期的に純利益率とROEが下がっている会社には注意しなければなりません。そういった会社は経営上、何かしらのムリがあると考えていいと思います。逆にROEと配当性向が高水準で推移しているところは、株式会社の本質的な機能を最大限に生かしていると考えられるので、経験上、長期的に着実に成長していく傾向があります。そういった企業の株式はまさに長期投資に最適だと思われま



[下のえいすけ]

1936年生まれ。60年勲角証券入社、朝日證券に異動後、20年にわたり、株式会社債権投資を運用。その後、米國大手運用会社キャピタルグループ入社。アナリスト、ファンドマネージャーを経て、日本法人であるキャピタルインテグレーション(株)代表取締役も務めた。2008年7月〜2012年6月まで「ゴースト」取締役CEO。